

2016 年 和鉄の道 Iron Road【16】の口 絵

- 絵-1 縄文の心 激変する現代社会を生き抜くために
約1万年の長きにわたる継続する社会 日本の縄文の「心」に今世界が注目する
- 絵-2 鉄の起源 & 「鉄」のユーラシア大陸 東遷の道探求
10年にわたる愛媛大の「鉄の起源・伝播 ユーラシア大陸各国研究連携プロジェクト」の成果
鉄の起源・日本への伝播の道「Iron Road」がベールを脱ぎ始めた
- 絵-3 「山は海の恋人」 森の中で水に溶け込んだ鉄分が海に流れ下り、豊かな海を育む
実験考古学による古代製鉄の復元と評価の推進 新しい知見が生まれている
- 絵-4 日本には今もたら製鉄が残り、古代からの製鉄が唯一受け継がれ、操業がわかる。
世界の各地で出土する古代の製鉄遺跡の評価にこの視点が大きな力となっていると聞く
- 絵-5 淡路島 秋帆銅鐸は出雲と同じ鋳型の兄弟銅鐸
国譲り神話の「出雲」・ 国生み神話の「淡路」で起きた弥生時代の末の大量の銅鐸埋納
- 絵-6 弥生末から古墳時代前期(3世紀～4世紀) 邪馬台国から日本の国家形成の時代
「鉄」で栄えた近江の中心都市集落「彦根市稲部遺跡」出土
琵琶湖交通・北陸や東日本と畿内をつなぐ交通の重要な結接点 近江の彦根・
纏向遺跡に匹敵する大型建造物・鍛冶工房群を有する鉄器物流の拠点都市集落が出土
- 絵-7 多田源氏・秀吉の隠し蔵 「多田銀銅山」を歩く 北摂 猪名川町
- 絵-8 肥後金象嵌「地鉄の黒の美しさ」
金細工のデザインを浮かび上がらせる「鉄素地 漆黒の黒の」

□絵-1 縄文の心 激変する現代社会を生き抜くために

世界に類のない1万年も平和で豊かな暮らし続いた日本の「縄文」
今世界が目にする 日本の「縄文の心」

世界に類のない1万年も平和で豊かな生活が続いた日本の「縄文」

そのエンジンは「他人を思いやる心」 人類が激変する地球を生き抜いてきた唯一の道でもある



世界が目にする縄文の「他を思いやる 心優しき縄文」

北東北・北海道の縄文遺跡をユネスコ世界遺産に

- ◆ 競争社会から成熟社会へ移行する日本に必要なのは「縄文かえり・心の優しさ」では・・・
朝日新聞天声人語にこんな記事が・・・

ヒューマンを特徴づける「利他的精神」がこんなところにも

2014.5.6 朝日新聞「天声人語」より

天声人語

おもしろい実験をネットで見
た。2本の高速道路が合流する
場合、どうすればすんなりと車
線変更できるかを探っている。
「渋滞学」の生みの親として知
られる東大の西成浩裕教授が説
明役だ▼車の代わり人間が二つの道を
歩く。合流する直前まで互いが見えない
状況ですぐに車線変更しようとする
と、ぶつかりそうになったり、詰まったりす
る。危ない。そこで合流地点から一定の
距離を車線変更禁止とする。するとその
間、互いを見合い、譲り合いながら車線
を変えられるようになる▼われ先に走る
よりは、まわりとコミュニケーションを
取りながら運転するほうが、結果的に速
くなる。車間距離を十分に取ることなど
とともに、道路の流れをよくするための
知恵である▼この実験は「利他的精神実
験」と銘打たれている。西成教授が強調
するのは、他のドライバーへの思いやり
だ。目先のプラスばかりを追わず、長期
的視野を持つ。情けは人のためならず。
損して得とれ、とも。頭ではわかってい
ても、なかなか実行できないところが凡
夫の悲しさか▼きのう、Uターンラッ
シュに巻き込まれた方も多に聞いた。
きょうも混雑が続くだろう。渋滞のスト
レスを長時間受け続けるつらさはいかば
かりか。どこにも出かけずじっとしてい
た身には、お気持ちを拝察することしか
できない▼大型連休が終わる。朝の駅の
雑踏が戻ってくる。遅い流れにいら立
って、ともすると前に出たがるのを自
戒することにする。急がば回れ、だ。

2014・5・6

人間が人間たる由縁は「他を思いやる心」を持っていること。 現生人類が現代にまで、幾多の苦難を乗り越え、
文明を発展させて 今まで生き延びることが出来たのは、この「他を思いやる心・利他的精神」を持ち合せていたからだという。
そんな「心やさしき」縄文人は 世界3大文明に先駆け、縄文文化を花開かせ、日本人の心のふるさととなった。
激しい競争社会が展開させる現在 今一度 この人類史の現実をみつめ直す必要がある。
ややもすれば 自己責任を強要する現代社会への警鐘 こんな身近な例からも社会を考えるヒントがある。

□絵-2 鉄の起源 & 「鉄」のユーラシア大陸 東遷の道探求

10年にわたる愛媛大の「鉄の起源・伝播 ユーラシア大陸各国研究連携プロジェクト」の成果
鉄の起源・日本への伝播の道「Iron Road」がベールを脱ぎ始めた

「ユーラシア大陸における鉄の発展史と弥生時代の鉄」 愛媛大村上恭通教授講演より

- ◎ 鉄の起源
ヒッタイト以前の世界最古の鉄の発見と地中海東岸の銅の産地での銅製錬の副産物として鉄が生まれた可能性を提案。 大きな話題となった
- ◎ 「鉄」のユーラシア大陸 東遷の道 ユーラシア大陸の東西を結ぶメタルロードがベールを脱ぎ始めた。
中国国内・東アジアでの伝播の道が繋がれば、たたら製鉄の起源に迫れる
- ◎ 出土遺跡に基づく古代製鉄の操業の評価と復元
[日本には今もたたら製鉄が残り、古代からの製鉄が唯一受け継がれ、操業がわかる]

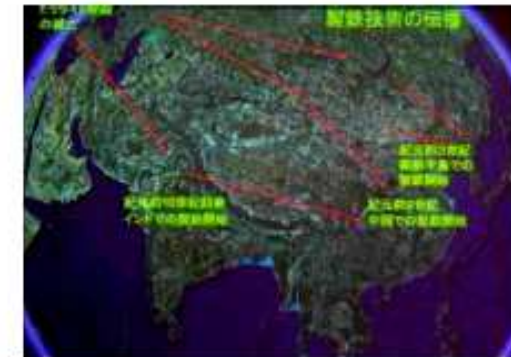


愛媛大村上恭通教授講演 「ユーラシア大陸における鉄の発展史と弥生時代の鉄」

◆「ユーラシア大陸における鉄の発展史と弥生時代の鉄」

西アジアで生まれた鉄のユーラシア大陸東進とその発展史

ユーラシア大陸を西から東へ数千年をかけて東進して、日本に伝えられた鉄
ユーラシア大陸のメタルロードで 3つのstageを経て 鉄は東へ伝播した
そのプロセスの理解なくしては 弥生の鉄を理解できない。



◎ 第1のstage : 第1波

見つかった鉄そのものの姿

小鉄塊が希少価値 宝物性を持つ

◎ 第2のstage : 第2波

希少・利用価値のある金属 威信性

金柄鉄剣など複合鉄器(バイメタル)

その希少性・利用価値ゆえ

金以上の価値があった鉄

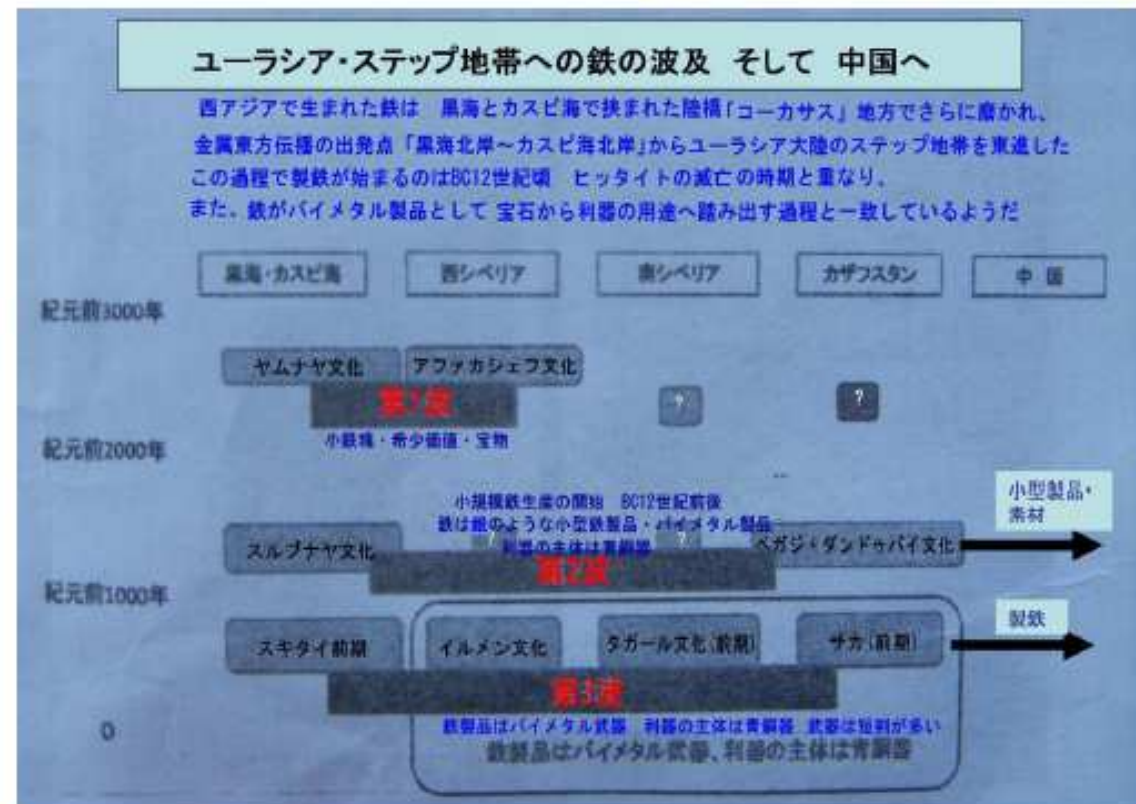
このstageの過程で

小規模製鉄がはじまったようだ

◎ 第3のstage : 第3波

広く実用利器としての利用

本格的な製鉄技術の確立



□絵-3 「山は海の恋人」

森の中で水に溶け込んだ鉄分が海に流れ下り、豊かな海を育む



「山は海の恋人」
森の中で 水に溶け込んだ鉄分は
川を下り、豊かな海を育む

たたら山郷 千種岩鍋 荒尾山鉄山跡を訪ねる 2016.7.20.

和鉄の故郷：古代製鉄神降臨の伝承地 千種川が流れ下る兵庫県千種岩鍋

©和鉄の道 2016 <http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1604tetsuenosasoieweb.pdf>

©和鉄の道 2016 <http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1608araoyama00.htm>

□絵-4 実験考古学による古代製鉄の復元と評価の推進 新しい知見が生まれている

日本には今もたたら製鉄が残り、古代からの製鉄が唯一受け継がれ、操業がわかる。
世界の各地で出土する古代の製鉄遺跡の評価にこの視点が大きな力となっていると聞く



愛媛大学 たたら製鉄実験の一例

弥生後期の五斗長垣内遺跡 弥生の鍛冶作業の実験
周辺の植物の茎で羽口代用による弥生の高温鍛冶の可能性
すでに高温鍛冶が行われていた可能性を示唆

口絵-5 淡路島 秋帆銅鐸は出雲と同じ鑄型の兄弟銅鐸

7個もの銅鐸が集中して見つかった南淡路市松帆

国譲り神話の「出雲」・ 国生み神話の「淡路」で起きた弥生時代の末の大量の銅鐸埋納
 国生神話の出雲・淡路は強い結びつき 大和の進出に国づくりの始まりに迫れるのか ???



口絵-6 弥生末から古墳時代前期(3世紀～4世紀) 邪馬台国から日本の国家形成の時代
「鉄」で栄えた近江の中心都市集落「彦根市稲部遺跡」出土

琵琶湖交通・北陸や東日本と畿内をつなぐ交通の重要な結接点 近江の彦根。
纏向遺跡に匹敵する大型建造物・鍛冶工房群を有する鉄器物流を担う拠点都市集落が出土



口絵-7 多田源氏・秀吉の隠し蔵 北摂「多田銀銅山」を歩く



江戸時代の鉱山町・街道筋の景観や家並・多数の間歩(坑道)などがそのまま残り
鉱山町の街道のすぐそばで、今も銅の露頭が見られます。



□絵-8. 肥後金象嵌「地鉄の黒の美しさ」
金細工のデザインを浮かび上がらせる「鉄素地 漆黒の黒の」



装飾品や刀のつばに施された肥後金象嵌 生地は肥後象眼伝統技法(錆び出し・錆止め)で施された「漆黒の黒」

水の中に溶けこんだ鉄分がお茶や柿渋などに含まれるタンニンで 黒く色がつくことは知っていましたが……
鉄象嵌については全く知りませんでした。

金細工のデザインを浮かび上がらせる素地「漆黒の黒地」は
赤さびを鉄素地表面全体につけ、それを柿渋やお茶に含まれるタンニンで
還元黒化して、錆止めする伝統技法

素地についた赤さびの Fe_2O_3 を還元して、黒さびの FeO と Fe_3O_4 にして、発色させた地鉄「漆黒」の技法。
鉄の生地表面そのものを「漆黒」に仕上げる貴重な肥後象嵌 伝統の技術として今も受け継がれている。

また、素地の鉄にこの細かい金細工を施す象嵌の技そのものも、多くの職人たちによって
時を経て磨き上げられ、「肥後象嵌」「加賀象嵌」「京象嵌」などと今に伝承されている。
他の伝統技術と比べてその実を知らないことも多い。